

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年5月30日

事業所名 Smile please MIZUHO

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11		広くスペースを使いたい時には、机をたたんで広くするなどして工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	11			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	11		重心側の施設はスロープがあり、室内もバリアフリーになっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	1		振り返り、反省をし、次の目標設定をするようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11			アンケート結果を受け止め、改善に努めていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10			今回が初めての評価アンケートだったので、集計次第ホームページにアップする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		第三者の方からの評価をもとに助言をいただき、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1	研修計画に基づき、研修会を行っている。	出勤数の少ない職員や出勤時間の短い職員に対しての研修が難しいので時間の確保を行えるようにしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11		アセスメントを行い個々の課題に応じた個別支援計画書を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		職員で話し合い、活動を決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		できるだけ活動内容が重ならないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	1		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	11		場合に応じて個別で集中して療育できる時間を作っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11		・毎朝、ミーティングをして確認をしている。 ・出勤時間が異なる職員には口頭で伝達事項を伝えている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		・ヒヤリハットがなかったかなど反省、振り返りを行っている。 ・退勤時間も異なるため、全体での振り返りは難しい。	その日の反省や振り返りがある際は各リーダーまたは児発管に報告することを徹底して、全体に共有できるようにしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		・記録をとり振り返るようにしている。 ・支援の仕方に悩んだ時はほかの職員にすぐに相談し共有して改善へつなげている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10		半年に一度のモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	9				

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		児童管理責任者は必ず参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10		契約後、利用開始までに学校へ連絡を取り、情報共有を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	11		医師の指示書ををいただき、何かある際は連携をとる。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9		・発達施設では対象児がまだいない。対象となったら情報提供していく。 ・重心側では対象児がいたが、ご家族には情報提供したが、施設自体にはしていない。	・今後、対象児がいる場合には情報の提供をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		専門機関に派遣して施設に来ていただき、実際に依頼したお子様についてリハビリの行い方や気になることについて助言していただいた。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		休日・学校休業日に児童館に出かけることがある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11			
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11		契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11		相談を持ち掛けられた日にすぐに対応できるようにであればそのまま相談にのった。また、日を改めてということであれば早め日にちを設定し、事業所またはご自宅にて相談支援を行った。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10		苦情があった場合にはすぐに対策し、改善できるように努める。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		通信やインスタグラムにて情報を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	10			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9		チラシやインスタグラムにて呼びかけをしている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10		通信にてその月何の避難訓練または防犯訓練を行ったのかお知らせしているので周知いただけるように継続していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	月に一度避難訓練または防犯訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	・虐待防止委員会を設置している。 ・セルフチェックシートを月に一度行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	医療的ケアの際や座位保持に必要となることがおおいので、状況や強さなどが十分な説明をしている。(個別支援計画書にも記載)	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	契約時にアレルギーの確認を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	職員で共有し対策を考えている。